

Ⅲ 各科目の分析と考察

1 国語

(1) 領域別及び評価の観点別の平均通過率

【国語A問題】

(%)

領域	言語事項	読むこと					書くこと	
		文学的文章	説明的文章	古文	漢文	資料		
評価の観点	知識・理解	読む能力					書く能力	関心・意欲・態度
平成25年度	79.0	59.0	71.0	64.3	54.7	72.0	66.4	89.5
平成24年度	78.7	80.7	71.3	37.2	58.8	81.5	62.1	85.3

【国語B問題】

(%)

領域	言語事項	読むこと					書くこと	
		文学的文章	説明的文章	古文	漢文	資料		
評価の観点	知識・理解	読む能力					書く能力	関心・意欲・態度
平成25年度	76.0	67.1	69.5	59.4	57.1	74.1	68.7	89.2
平成24年度	83.6	87.2	67.5	41.5	58.5	84.0	65.8	86.5

(2) 設問ごとの通過率等一覧

①国語A問題

(%)

大問	小問	学習指導要領 の内容項目等	出題のねらい	評価の観点	通過率			誤答率	無答率
						正答率	準正答率		
1	一	① 中 言語事項	常用漢字「外」を読むことができる。	知識・理解	90.6	90.6		8.7	0.7
		② 中 言語事項	常用漢字「便乗」を読むことができる。		90.6	90.6		8.5	0.9
		③ 中 言語事項	常用漢字「採集」を読むことができる。		77.4	77.4		22.1	0.5
		④ 中 言語事項	常用漢字「専ら」を読むことができる。		59.6	59.6		34.5	5.9
	二	① 中 言語事項	常用漢字「予測」を書くことができる。		78.2	78.2		16.7	5.1
		② 中 言語事項	常用漢字「拾う」を書くことができる。		79.7	79.7		18.2	2.1
		③ 中 言語事項	常用漢字「検査」を書くことができる。		86.3	86.3		10.0	3.7
		④ 中 言語事項	常用漢字「貸す」を書くことができる。		74.4	74.4		24.1	1.5
	三	中 言語事項	主語・述語の関係について理解している。		71.5	71.5		28.2	0.3
	四	国総 言語事項	相手に応じた敬語の用い方について理解している。		79.4	79.4		20.3	0.3
	五	中 言語事項	「お茶をにごす」という慣用句について理解している。		74.5	74.5		25.1	0.4
2	六	中 言語事項	「口」という語が表す多くの意味について理解している。		88.9	88.9		10.8	0.3
	一	中 読むこと	文章中にあてはまる適切な表現を選ぶことができる。	読む能力	35.9	35.9		63.4	0.7
	二	中 読むこと	文章中の空欄にあてはまる適切な語を答えることができる。		37.0	37.0		49.9	13.1
	三	中 読むこと	文章に描かれた人物の心情を正確にとらえることができる。		71.0	71.0		27.8	1.2
	四	国総 言語事項	文章に描かれた表現法を選ぶことができる。	知識・理解	80.0	80.0		19.0	1.0
3	五	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。	読む能力	92.0	92.0		6.9	1.1
	一	国総 読むこと	文章中の空欄にあてはまる適切な表現を書くことができる。	読む能力	87.8	87.8		6.8	5.4
	二	中 読むこと	文章中にあてはまる適切な接続詞を選ぶことができる。		79.0	79.0		19.9	1.1
	三	中 読むこと	文章中の空欄にあてはまる適切な表現を選ぶことができる。		66.6	66.6		31.9	1.5
	四	中 読むこと	文章中の表現上の特色を選ぶことができる。		70.1	70.1		28.7	1.2
	五	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。		51.4	51.4		47.4	1.2
4	一	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。	読む能力	54.2	54.2		44.6	1.2
	二	中 言語事項	歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いについて理解している。	知識・理解	82.6	82.6		14.4	3.0
	三	中 言語事項	動詞「打た」の活用について理解している。		64.4	64.4		34.2	1.4
	四	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。	読む能力	74.5	74.5		24.0	1.5
5	一	国総 言語事項	返り点の付け方を理解している。	知識・理解	86.1	86.1		8.4	5.5
	二	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。	読む能力	30.0	30.0		68.1	1.9
	三	中 読むこと	文章中の会話文を指摘することができる。		71.2	71.2		27.0	1.8
	四	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。		63.0	63.0		34.9	2.1
6	一	中 読むこと	二つの文章に共通する目的を読み取ることができる。	読む能力	72.0	72.0		25.7	2.3
	二	分量	自分の考えを指定された字数でまとめようとしている。	関心・意欲・態度	89.6	89.6		2.6	7.8
		構成	二段落構成で文章をまとめることができる。	書く能力	73.6	73.6		18.6	7.8
		叙述	文章から読み取ったことを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。		61.3	61.3		30.9	7.8
		語句の選択	正しい語句の選択をし、文章にまとめることができる。		64.3	64.3		27.9	7.8

②国語B問題

(%)

大問	小問	学習指導要領 の内容項目等	出題のねらい	評価の観点	通過率			誤答率	無答率
						正答率	準正答率		
1	一	① 中 言語事項	常用漢字「採集」を読むことができる。	知識・理解	77.6	77.6		22.1	0.3
		② 中 言語事項	常用漢字「承る」を読むことができる。		83.5	83.5		14.2	2.3
		③ 中 言語事項	常用漢字「便乗」を読むことができる。		90.9	90.9		8.7	0.4
		④ 中 言語事項	常用漢字「専ら」を読むことができる。		60.1	60.1		32.6	7.3
	二	① 中 言語事項	常用漢字「裁判」を書くことができる。		89.0	89.0		8.7	2.3
		② 中 言語事項	常用漢字「補う」を書くことができる。		72.4	72.4		15.7	11.9
		③ 中 言語事項	常用漢字「半減」を書くことができる。		90.6	90.6		6.2	3.2
		④ 中 言語事項	常用漢字「預ける」を書くことができる。		78.9	78.9		19.1	2.0
	三	中 言語事項	主語・述語の関係について理解している。		72.9	72.9		26.9	0.2
	四	国総 言語事項	相手に応じた敬語の用い方について理解している。		70.1	70.1		29.6	0.3
2	五	中 言語事項	「右に出る」という慣用句について理解している。	読む能力	91.3	91.3		8.4	0.3
	六	中 言語事項	「口」という語が表す多くの意味について理解している。		90.8	90.8		8.9	0.3
	一	国総 読むこと	文章中の空欄にあてはまる適切な語を答えることができる。	知識・理解	78.4	78.4		14.2	7.4
	二	国総 言語事項	文章中の語句の意味をとらえることができる。		71.9	71.9		27.4	0.7
	三	国総 言語事項	文章に描かれた表現法を選ぶことができる。		50.5	50.5		48.8	0.7
3	四	国総 読むこと	文章に描かれた人物の心情を正確にとらえることができる。	読む能力	53.1	53.1		46.2	0.7
	五	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。		65.1	65.1		34.2	0.7
	一	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。	読む能力	77.7	77.7		21.5	0.8
	二	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。		86.5	86.5		12.6	0.9
	三	国総 読むこと	文章中にあてはまる適切な語を選ぶことができる。		71.6	71.6		27.4	1.0
4	四	国総 読むこと	文章の構成を適切にとらえることができる。		58.4	58.4		40.2	1.4
	五	国総 読むこと	文章全体の内容を的確に読み取ることができる。		53.6	53.6		45.3	1.1
	一	国総 言語事項	動詞「行は」の活用について理解している。	知識・理解	55.0	55.0		43.9	1.1
	二	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。	読む能力	67.4	67.4		31.4	1.2
5	三	国総 言語事項	正しく口語訳することができる。	知識・理解	63.6	63.6		35.3	1.1
	四	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。	読む能力	51.5	51.5		47.2	1.3
	一	国総 読むこと	文章中の表現について、的確に答えることができる。	読む能力	57.4	57.4		41.2	1.4
	二	国総 言語事項	返り点の付け方を理解している。		78.7	78.7		17.3	4.0
6	三	国総 読むこと	文章中の表現について、的確に答えることができる。		58.3	58.3		40.3	1.4
	四	国総 読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。		55.7	55.7		42.6	1.7
	一	中 読むこと	二つの文章に共通する目的を読み取ることができる。	読む能力	74.1	74.1		23.6	2.3
	二	分量	自分の考えを指定された字数でまとめようとしている。	書く能力	89.2	89.2		3.0	7.8
		構成	二段落構成で文章をまとめることができる。		73.2	73.2		19.0	7.8
		叙述	文章から読み取ったことを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。		64.0	64.0		28.2	7.8
		語句の選択	正しい語句の選択をし、文章にまとめることができる。		68.8	68.8		23.4	7.8

(3) 具体的な設問の分析

昨年度の課題 1

継続課題

○説明的文章を読むことについて、叙述に即して文章の内容を的確に読み取ることに課題。(B問題)

【今年度の出題のねらい】

○文章全体の内容を的確に読み取ることができる。

B問題 3 五

B問題 3 五

(黒川雅之「八つの日本の美意識」による。

この文章の内容と一致しているものを、次の ①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 日本人は永久に変わらない家屋を持つことを喜びと感じ、周りの自然を支配して人間のコントロール下に置こうとしている。
- ② 日本人はものづくりにおいて、つくった当時と同じになるよう修復することができる職人の高度な技術の中に美を見出している。
- ③ 近代以降コンクリート等の新建材が登場して、従来から続いていた、家屋と融合していた美しい日本の自然が破壊されている。
- ④ 人の技を目立たせないように、できるだけ手を加えないでものをつくることは、日本人の自然に対する謙虚な姿勢の表れである。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無答
割合 (%)	7.1	7.3	30.8	53.6	0.0	1.1

文章全体の内容を正しく捉えることができるかどうかをみた。誤った選択肢③を選んだ生徒の割合が 30.8%いる。③を選んだ理由として、第5段落の説明だけに着目し、「その秩序」の内容を理解することができていないこと、また、「破壊」の意味を正確に捉えることができていないことが考えられる。

【関連する過去の問題】

平成24年度 B問題 3五

(山崎正和「文明としての教育」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の ①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 「作法」の手順が人の目に見えるまで、個人の責任と努力によって、修行を重ねなければいけない。
- ② 文明の教育が広がり、生涯学習の考えが入ってくることによって、「人生」は豊かなものになる。
- ③ たとえ生まれ育った環境が厳しくても、他人と交流することで、優れた文化人が生まれることがある。
- ④ 自分を乗り越えるための修行を成り立たせる教育によって、人生というものに新たな価値が現れる。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無答
割合 (%)	5.0	23.6	9.7	60.6	0.1	1.1

正答の④を選んだ生徒の割合が60.6%であり、文章全体の内容を的確に読み取ることが一定程度できている。しかし、誤った選択肢②を選んだ生徒の割合が23.6%いる。②を選んだ理由として、第6段落に取り上げられている「生涯学習」の説明だけに着目し、「人生」と「教育」との関係を理解することができていないこと、また、最後の一文の「発見された」という意味を正確に捉えることができていないことが考えられる。

【改善状況と課題】 ○：改善， 定着 ●：課題

- 平成24年度のB問題の通過率60.6%に対し、平成25年度のB問題の通過率は53.6%であり、7.0%下降した。筆者がどのようなことを言おうとしているのかを、筆者の論の展開に即して把握することが不十分である。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、説明的文章を読むときには、論の展開を確認しながら筆者の考えを読み取らせる指導を行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	B問題 3 五	53.8	33.7

- ・かなり相関がある。
- ・「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は、20.1 ポイントである。

指導改善のポイント

説明的文章を読むことの指導において、文章の構造を確認しながら筆者の考えを読み取らせる指導が必要である。

具体的には、文章の構造を考えさせる指導が必要。

⇒p.36

○古典の文章を読むことについて、文章の内容を的確に捉えることは古文については改善しているが、漢文については課題がある。

【今年度の出題のねらい】

○文章の内容を的確に読み取ることができる。

A問題4四, B問題5四

A問題4四

昔、恵心僧都、一日、庭前に草を食する鹿を、人をして打ち a 追はしむ。時に人有つて、問うて b 云はく、「師、慈悲なきに似たり。草を惜しんで、畜生を悩ます。」
僧都云はく、「我、もしこれを c 打た ずんば、この鹿、人に馴れて、悪人に近づかん時、必ず殺されん。この故に打つなり。」
鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事、かくの如し。
(「正法眼蔵随聞記」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の ①～④ の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 恵心僧都は、自分の目先の利益を優先しようとするために、何の罪もない従順な鹿を追い払った。
- ② 恵心僧都は、鹿を追い払う厳しい姿を民衆に示すことで、人間自身の罪深さを考えさせようとした。
- ③ 恵心僧都は、鹿に庭先に生えている草を食べさせず、あえて自分のちからでえさを探し出させようとした。
- ④ 恵心僧都は、鹿に人間の恐ろしい面を教え、むやみに悪人に近づき命を落とすことがないようにさせた。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無解答
割合 (%)	7.5	8.1	8.3	74.5	0.1	1.5

「追う」と「打つ」の内容を正確に理解している。また、第三段落の「慈悲余れる事」の内容を叙述に即して正確に捉えることができています。第一段落の「草を食する」という表現のみに着目し、誤った選択肢③を選んだ生徒の割合が8.3%いる。

【関連する過去の問題】

平成24年度 A問題 4四

にしとみといふ所の山、絵よく a かき たらむ屏風を立て並べたらむやうなり。片つ方は海、浜のさまも、寄せかへる浪のけしきも、 b いみじうおもしろし。

もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。「夏は大和撫子の、濃くうすく錦を引けるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」と言ふに、なほ所々はうちこぼれつつ、 c あはれげに 咲きわたれり。「もろこしが原に、大和撫子しも咲きけむこそ」など、人々をかしがる。
(「更科日記」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の ①～④ の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① もろこしが原の白い砂浜と淡紅色の大和撫子を見事に描いている屏風を見て、人々は懐かしさを感じた。
- ② もろこしが原という名の場所に、大和という名の付いた花が咲いていることに、人々は面白さを感じた。
- ③ 今を盛りに錦を敷いたように、大和撫子が咲いている様子に、人々は秋の終わりのさびしさを感じた。
- ④ 秋の終わりに、砂浜に大和という名の付いた花が投げ捨てられているのを見て、人々は悲しさを感じた。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無答
割合 (%)	14.4	19.2	57.3	7.6	0.1	1.5

人々が「をかしがる」内容を正しく捉えていない。文章中の「もろこしが原に、大和撫子しも咲きけむこそ」に着目できていないために誤った選択肢①を選んでいる。文章中の「秋の末」だけに着目し、誤った選択肢③や④を選んでいる。文章全体の内容を的確に捉えることが不十分である。

B問題5四

「夫以銅為鏡、a可以正衣冠。以古為鏡、可以知興替。以人為鏡、可三以明得失。朕常保此三鏡、以b防己過。今魏徵徂逝、遂c亡一鏡矣。」因泣下久。詔曰、「昔惟魏徵每顯余過。自其逝也、雖過莫彰。朕d豈獨有下非於往時、而皆是於茲日。」
 （「貞觀政要」による。）

傍線部d「豈獨有下非於往時、而皆是於茲日」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 昔も今も間違えることはあるはずなのに、自分が涙を流したために誰も過ちを指摘できなくなったから。
- ② 昔も今も間違えることはあるはずなのに、今では誰一人として自分の過ちを指摘してくれなくなったから。
- ③ 昔も今も間違えることはあるはずなのに、魏徵までもが自分に遠慮して過ちを指摘してくれなくなったから。
- ④ 昔も今も間違えることはあるはずなのに、王の過ちを指摘したら罪に問うという命令を出してしまったから。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②（正答）	③	④	その他	無解答
割合（％）	12.9	55.7	19.2	10.4	0.1	1.7

文章全体の内容を正しく捉えることができるかどうかをみた。文章中の「過莫」だけに着目し、誤った選択肢③を選んでいる。「今魏徵徂逝」の内容をとらえることができていない。文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが不十分である。

【関連する過去の問題】

平成24年度 B問題 5四

人各有能、a有不能。有所長、有所短。明者之用人也、用其能、而矜其不能、取其所長、而容其所短。b猶良医之用藥、良匠之用材然。各取其所長而用之。c是以天下無棄才、人各得尽其能。
(「慎思録」による。)

この文章で筆者が主張しようとしたことはどのようなことですか。最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 世の中の人誰でも長所と短所があり、お互いにそれぞれの短所を補い合うように気を配るべきである。
- ② 世の中の人誰でも長所と短所があり、それぞれ自分の短所を改善していくように努力するべきである。
- ③ 世の中の人誰でも長所と短所があり、用いる人がそれぞれの長所を取り上げるようにするべきである。
- ④ 世の中の人誰でも長所と短所があり、それぞれ自分がどんな長所を持っているかよく知るべきである。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③ (正答)	④	その他	無答
割合 (%)	20.8	15.5	47.2	15.0	0.1	1.5

文章中の「容其所短」だけに着目し、「短所を補い合う」という①の選択肢を誤って選んでいる。「棄才」の「棄」の意味は注に書いてあるが、文章全体の内容を正しく捉えていないため②や④を選んでいる。文章全体の内容を的確に捉えることが不十分。

【改善状況と課題】 ○：改善，定着 ●：課題

○古文については、平成24年度のA問題の通過率19.2%に対し、平成25年度のA問題の通過率は74.5%であり、55.3ポイント上昇している。文語文法などの知識をもとに、文章全体の内容を的確に捉えることについて改善がみられる。

●漢文については、平成24年度のB問題の通過率47.2%に対し、平成25年度のB問題の通過率は55.7%であり、8.5ポイント上昇している。句法の知識をもとに、文章全体の内容を的確に捉えることについては改善がみられるものの、十分に定着しているとは言い難い。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、書かれた内容を理解するだけでなく、筆者の意図や文章全体の主題を考える学習活動を取り入れている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	A問題 4 四	75.2	50.8
	B問題 5 四	19.4	13.4

- ・かなり相関がある。
- ・「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差はA問題では24.4ポイント、B問題では6.0ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典の文章を読むことの指導において、筆者の意図や文章全体の主題を考える学習活動を取り入れることが必要である
具体的には、場面の变化に着目させる指導が必要。

⇒p.37

○古典の文章を読むことについて、前後の関係をとらえ、叙述に即して内容を的確に読み取ることに課題（A問題）。

【今年度の出題のねらい】

○文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。

A問題4一・5二

A問題4一

昔、恵心僧都、一日、庭前に草を食する鹿を、人をして打ち a 迫はしむ。時に人有つて、問うて b 云はく、「師、慈悲なきに似たり。草を惜しんで、畜生を悩ます。」

僧都云はく、「我、もしこれを c 打た ずんば、この鹿、人に馴れて、悪人に近づかん時、必ず殺されん。この故に打つなり。」

鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事、かくの如し。

（「正法眼蔵随聞記」による。）

傍線部 a 「迫はしむ」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適切なものを、次の ①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 追い払われた ② 追い払いたいと思った ③ 追い払わせた ④ 追い払うことができた

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③（正答）	④	その他	無解答
割合（％）	12.0	20.5	54.2	12.0	0.1	1.2

「恵心僧都」が「鹿」のことをどのように捉えているのかを理解できていない。第一段落の「畜生を悩ます」という部分だけに着目して誤った選択肢②を選んでいる。文章の内容を叙述に即して正確に捉えることが不十分である。

A問題5二

桓公坐有参軍椅。蒸菰不時解共食者又 a 不助。而椅終不放。 b 举坐皆笑。桓公曰、同盤尚不相助、況復危難乎。勅令免官。

（「世説新語」による。）

傍線部 b 「举坐皆笑」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを、次の ①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 椅が、宴席に出された菰を独り占めしようとしていたから。
 ② 椅が、宴席でほぐれない菰をいつまでもほぐそうとしていたから。
 ③ 椅が、宴席で誰からも菰をほぐすのを助けてもらえなかったから。
 ④ 椅が、宴席に出された生の菰を一生懸命食べようとしていたから。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無解答
割合 (%)	5.5	30.0	52.5	10.0	0.1	1.9

文章全体の内容を正しく捉えることができるかどうかをみた。文章中の「不相助」だけに着目し、誤った選択肢③を選んでいる。「皆笑」の内容をとらえることができていない。文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが不十分である。

【関連する過去の問題】

平成24年度 A問題4二

にしとみといふ所の山、絵よく a かき たらむ屏風を立て並べたらむやうなり。片つ方は海、浜のさまも、寄せかへる浪のけしきも、 b いみじうおもしろし。

もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。「夏は大和撫子の、濃くうすく錦を引けるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」と言ふに、なほ所々はうちこぼれつつ、 c あはれげに 咲きわたれり。「もろこしが原に、大和撫子しも咲きけむこそ」など、人々をかしがる。
(「更科日記」による。)

傍線部b「いみじうおもしろし」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 非常に愉快だ ② ひどくばかばかしい ③ 非常に風流だ ④ ひどく退屈だ

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③ (正答)	④	その他	無解答
割合 (%)	35.1	5.4	55.3	3.2	0.0	1.0

「おもしろし」に代表されるような古今異義語の理解に課題がある。文章中の冒頭部分「にしとみといふ所の山」に着目できていないために誤った選択肢①を選んでいる。文章の内容を叙述に即して正確に捉えることが不十分である。

平成24年度 A問題5三

魏志何晏字平叔、南陽宛人。尚金郷公主、為吏部尚書・駙馬都尉。世説曰、a 平叔美姿、面至 (I)。明帝、疑其傅粉、夏月令食湯餅。汗出。以巾拭 b 之、轉皎白也。
(「蒙求」による。)

傍線部b「之」は何を指しますか。最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 粉 ② 湯餅 ③ 姿 ④ 面

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④（正答）	その他	無解答
割合（％）	24.1	20.3	6.6	47.4	0.2	1.4

文章全体の内容を正しく捉えることができるかどうかをみた。文章中の「湯餅」だけに着目し、誤った選択肢②を選んでいる。「明帝疑」の内容をとらえることができていない。文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが不十分である。

【定着状況】○：定着 ●：課題

●古文については、平成24年度のA問題の通過率55.3%に対し、平成25年度のA問題の通過率は54.2%であり、1.1ポイント下降している。文語文法などの知識をもとに、文章の内容を叙述に即して正確に捉えることが不十分である。

漢文については、平成24年度のA問題の通過率47.4%に対し、平成25年度のA問題の通過率は30.0%であり、17.4ポイント下降していることから、句法の知識をもとに、文章の内容を叙述に即して正確に捉えることが不十分である。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、古文及び漢文を読むときには、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関係を捉えながら読み取らせる指導を行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率（％）	A問題 ⁴ 二	56.3	45.6
	A問題 ⁵ 三	31.3	24.6

- ・やや相関がある。
- ・「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は、A問題⁴二では10.7ポイント、A問題⁵三では6.7ポイントである。

指導改善のポイント

○ 古典の文章を読むことの指導において、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関係や指示する内容などを捉えながら、筆者の意図や文章全体の主題を考えさせる指導が必要である。

具体的には、人物・場面・出来事を明確にさせる指導が必要。

⇒p.38

○古典文法における文語文法についての理解に課題。

【今年度の出題のねらい】

○動詞の活用について理解している。

A問題4三, B問題4一

A問題4三

昔、恵心僧都、一日、庭前に草を食する鹿を、人をして打ち a 追はしむ。時に人有つて、問うて b 云はく、「師、慈悲なきに似たり。草を惜しんで、畜生を悩ます。」

僧都云はく、「我、もしこれを c 打た ずんば、この鹿、人に馴れて、悪人に近づかん時、必ず殺されん。この故に打つなり。」

鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事、かくの如し。

(「正法眼蔵随聞記」による。)

傍線部c「打た」の、文中における活用形は何ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	③	④	その他	無解答
割合 (%)	64.4	14.0	12.2	7.9	0.1	1.4

正答の未然形と答えた生徒の割合が 64.4%であり、文語文法についての理解は一定程度できている。しかし、連用形と答えた生徒の割合が 14.0%、連体形と答えた生徒の割合が 12.2%おり、動詞の活用についての理解が不十分である。また、助動詞の接続についての理解も十分とは言えない。ここでは助動詞の「ず」に接続する形であることから正答は未然形となる。

【関連する過去の問題】

平成24年度 A問題4一

にしとみといふ所の山、絵よく a かき たらむ屏風を立て並べたらむやうなり。片つ方は海、浜のさまも、寄せかへる浪のけしきも、 b いみじうおもしろし。

もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。「夏は大和撫子の、濃くうすく錦を引けるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」と言ふに、なほ所々はうちこぼれつつ、 c あはれげに 咲きわたれり。「もろこしが原に、大和撫子しも咲きけむこそ」など、人々をかしがる。
(「更科日記」による。)

傍線部a「かき」の、文中における活用形は何形ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無答
割合 (%)	9.7	69.5	15.0	4.6	0.1	1.1

「かき」はカ行四段活用動詞で、「かき」の形となるのは連用形のみである。ここでは助動詞の「たり」に接続する形であることから正答は連用形となる。終止形と答えた生徒の割合が15.0%、未然形と答えた生徒の割合が9.7%である。

平成25年度 B問題4一

これも今は昔、堀河院の御時、奈良の僧どもを召して、大般若の御読経 a 行は れけるに、明暹この中に参る。その時に、主上御笛を遊ばしけるが、やうやうに調子を変へて、吹かせ給ひけるに、明暹調子ごとに、声違へず上げければ、b 主上怪しみ給ひて、この僧を召しければ、明暹ひざまづきて庭に候。仰によりて、上りて簀子に候に、c 笛や吹く」と問はせおはしましければ、「かたのごとく仕り候」と申しければ、「さればこそ」とて、御笛賜びて吹かせられけるに、万歳樂をえもいはず吹きたりければ、御感ありて、やがてその笛を賜びてけり。件の笛伝りて、今八幡別当幸清がもとにありとか。

(「発心集」による。)

傍線部a「行は」の、文中における活用形は何形ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	③	④	その他	無答
割合 (%)	55.0	25.3	13.0	5.5	0.1	1.1

「行は」はハ行四段活用動詞で、「行は」の形となるのは未然形のみである。ここでは助動詞「る」に接続する形であることから正答は未然形となるが、25.3%の生徒が連用形と答えている。また、連体形と答えた生徒も13.0%いる。動詞の活用についての理解が不十分であり、また、助動詞の接続についての理解も十分とは言えない。

【関連する過去の問題】

平成24年度 B問題4一

むかしある君楼をかまへ、是に登りて詠られしに、遠近の風景限りなくおもしろかりけり。只一方にその臣何某が家の森ふかくしげりて、眼を a さへぎり けり。よつてかの臣をめして、かの臣心づき、家にかへり我あたりの樹の目に障ればこそ、b かく はまねき給ひつらめとて、c 已にきらんとせしが、いやいや君の心をよく察するものとおもはれては、行末むづかしとて、しらぬふりして打捨おきけり。其後君何やらん計の有しとき、心さとき臣等疑をうけゝるが、此臣ばかり右の事思ひ出給ひ、d 何のうたがひもなかりし とかや。

(「梅園叢書」による。)

傍線部a「さへぎり」の、文中における活用形は何形ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無答
割合 (%)	6.5	69.7	16.9	5.7	0.2	1.0

「さへぎり」はラ行四段活用 of 動詞で、「さへぎり」の形となるのは連用形のみである。ここでは助動詞「けり」に接続する形であることから正答は連用形となる。連体形と答えた生徒が 16.9%, 未然形と答えた生徒が 6.5% である。

【改善状況と課題】 ○ : 改善, 定着 ● : 課題

- A問題B問題とも, 平成24年度同様に動詞の活用を理解しているかをみた。

平成24年度のA問題の通過率 69.5% に対し, 平成25年度のA問題の通過率は 64.4% であり, 5.1 ポイント下降している。動詞の活用についての理解が定着していない。

平成24年度のB問題の通過率 69.7% に対し, 平成25年度のB問題の通過率は 55.0% であり, 14.7 ポイント下降している。動詞の活用についての理解が定着していない。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では, 文語文法の指導を読むことの指導に即して繰り返し行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	A問題 4一	71.8	36.0
	B問題 4一	59.4	27.9

- ・ A問題 強い相関がある。 B問題 強い相関がある。
- ・ 「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は, A問題では 35.8 ポイント, B問題では 31.5 ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典を読むことの指導において, 文語文法について繰り返し指導することが必要である。

具体的には, 接続する語などの根拠に基づいて活用形を覚えさせる指導が必要。

⇒p.39

今年度の課題

○文学的文章を読むことについて、叙述に即して人物の心情を的確に捉えることに課題。(B問題)

【今年度の出題のねらい】

○文章に描かれた人物の心情を正確にとらえることができる。

B問題 2 四

B問題 2 四

(宮下奈都「スライダーズ・ミックス」による。)

傍線部c「さっき待ち合わせをした店はまだにぎわっていたけれど、前を通ってももう別の店みたいに見えた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の ①～④ の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 千夏の演技を見た感動と興奮で、自分がどこにいるのかよくわからなくなっていたから。
- ② 千夏と待ち合わせをしたとき以上にお客さんが増えていて、店内が盛り上がっていたから。
- ③ 千夏の演技に刺激を受けて、物事を前向きにとらえようとする気持ちが芽生えたから。
- ④ 千夏の舞台を見た後、私とひかりの会話が全く無くなり、気まずい雰囲気になったから。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③ (正答)	④	その他	無答
割合 (%)	30.3	3.9	53.1	12.0	0.0	0.7

傍線部cの「もう別の店みたいに見えた」という部分をそのままの意味で捉えている。千夏の演技を見た感動と興奮だけで判断しているために誤った選択肢①を選んでいる。文章中の「愚痴をこぼした私たち」という意味を否定的な意味に捉えて、誤った選択肢④を選んでいる。文章全体の内容を的確に捉えることが不十分である。人物の心情を正確に捉えることが不十分。

【関連する過去の問題】

平成24年度 B問題 2三

(三浦しをん「風が強く吹いている」による。)

傍線部b「清瀬は走の言葉をさえぎった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① ライバルである「榊」に勝てるのかと心配する「走」に対して、高校時代を思い出してほしいと考えたから。
- ② 過去にとらわれ自信を失っている「走」に対していらだちを感じ、何を言っても無駄だと考えたから。
- ③ 記録会に出場することに対して恐怖感を抱いている「走」に、何とか出場を決意させようと考えたから。
- ④ 「走」が過去にこだわっていると感じ、今の「走」には昔の評判を気にせず走ってもらいたいと考えたから。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無答
割合 (%)	1.6	3.0	3.7	90.9	0.1	0.7

正答の④を選んだ生徒の割合が 90.9%であり、人物の心情を正確に捉えることはできている。

「清瀬」の心情と過去にこだわる「走」の心情を叙述に即して正確に捉えている。

平成24年度のB問題の通過率 90.9%に対し、平成25年度のB問題の通過率は 53.1%であり、37.8 ポイント下降している。会話文等を手掛かりとして、登場人物の心情を的確に捉えることが不十分である。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、書かれた内容を理解だけでなく、筆者の意図や文章全体の主題を考える学習活動を取り入れている。

		H 2 4	H 2 5	県全体
		あまり・まったく あてはまらない	よく・やや あてはまる	
通過率の変化(%) (H25-H24)	H24B問題2 (3) H25B問題2 (4)	- 2 8 . 4		- 3 7 . 8

・平成24年度調査で「あてはまらない」と解答し、平成25年度調査で「あてあまる」と回答した学校の生徒の通過率の変化は28.4ポイント下降しているものの、県全体の通過率の下降の37.8ポイントより高くなっている。

指導改善のポイント

- 文学的文章を読むことの指導において、場面ごとの人物の心情を考える学習活動を取り入れることが必要である
具体的には、人物・場面・出来事を明確にさせる指導が必要。

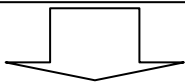
⇒p.40

(4) 課題の改善に効果的な指導方法

- ア 「説明的文章を読むことについて、叙述に即して文章の内容を的確に読み取ること」の具体的な事例

文章の構造を理解させることにより、叙述に即して的確に読み取らせる指導。

(県立宮島工業高等学校全日制課程)



説明的文章を読むことについて、叙述に即して的確に読み取ることが不十分という状況に改善が見られた。

B問題において、「説明的文章を読むこと」の通過率が、県全体の変化に比べ5.4ポイント高い。

『「私から社会へ」のルート探し』 学習プリント1

○ 第一段落

「そうした状況が一九九〇年代の半ばぐらいから少しずつ変わってきた」

問1 「そうした状況」とは、どのような状況か？

「5W1H」の要素をまとめる

5	4	3	2	1
対比	どうだったのか	何が	どの・だれの	いつの

ポイント
文章の構造を把握するための基本的な要素について学ばせている。

問2 どのような価値観に「変わってきた」のか？

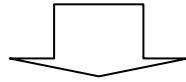
指導改善のポイント

- 説明的文章を読むことについて、文章の構造を考えさせる工夫を行うことにより、内容を叙述に即して的確に読み取らせるようにする。

イ 「古典の文章を読むことについて、文章の内容を的確にとらえること」の具体的な事例

場面の变化に着目させることにより、文章全体の内容を的確に捉えさせる指導。

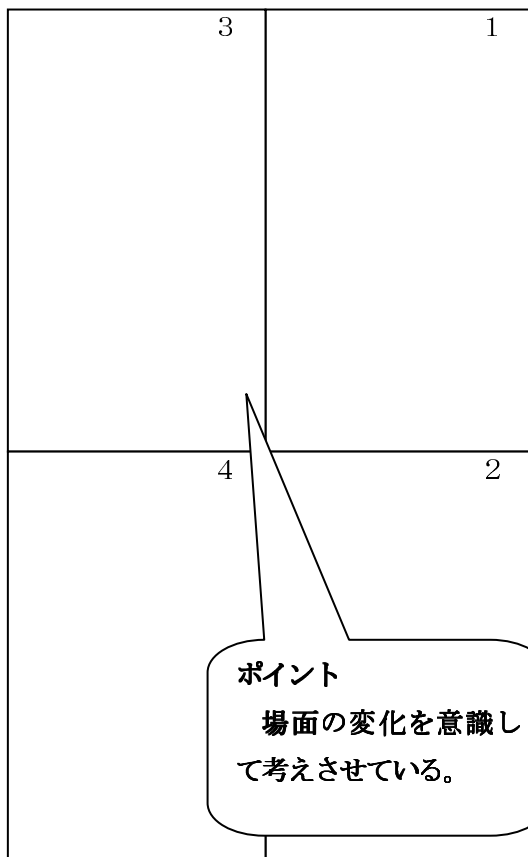
(県立向原高等学校)



古典を読むことについて、文章の内容を的確に捉えることが不十分という状況に改善が見られた。

B問題において、「漢文を読むこと」の通過率が、県全体の变化に比べ5.8ポイント高い。

○ 次の漢文の内容を理解し、四コマ漫画を作ってみよう。



楚ニ有ニリ祠ル者一。賜ニフ其ノ舎
人ニ卮酒一ヲ。舎人相謂ヒテ曰ハク
「数人ニテ飲レマバ之ヲ不レ足ヲ。……
(「蛇足」)

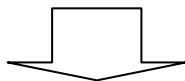
指導改善のポイント

- 古典を読むことについて、文章全体の内容を場面の変化に着目させるなどの工夫により、文章の内容を的確に読み取らせるようにする。

ウ 「古典の文章を読むことについて、叙述に即して的確に読み取ること」の具体的な事例

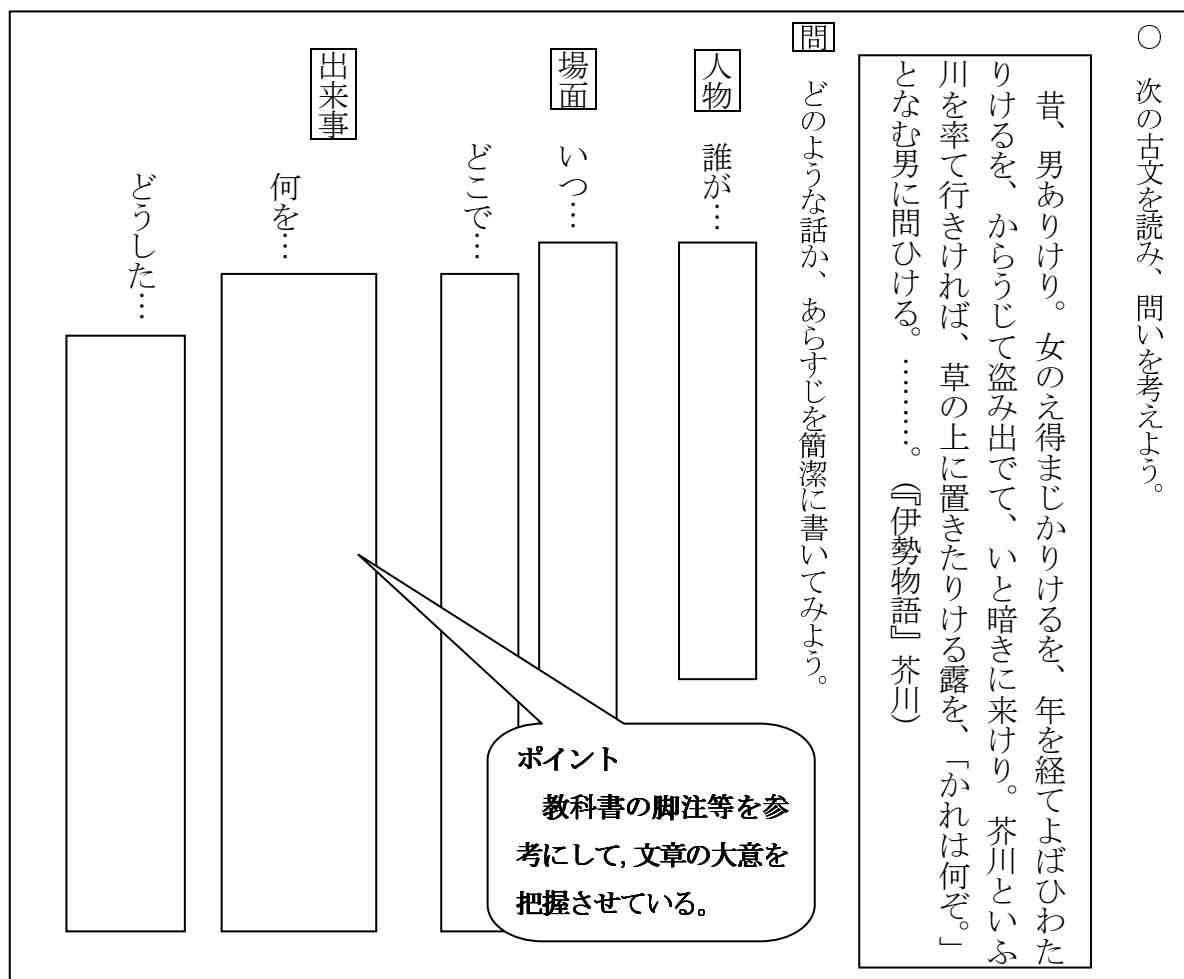
人物、場面、出来事に着目させることにより、文章全体の内容を的確に捉えさせる指導。

(県立西城紫水高等学校)



古典を読むことについて、叙述に即して的確に読み取ることが不十分という状況に改善が見られた。

A問題において、「古文を読むこと」の通過率が、県全体の変化に比べ25.2ポイント高い。



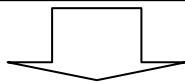
指導改善のポイント

- 古典を読むことについて、文章全体の内容を人物、場面、出来事に着目させるなどの工夫により、内容を叙述に即して的確に読み取らせるようにする。

エ 「古典文法を理解すること」の具体的な事例

古典文法の基本事項について、毎週行う小テストにより繰り返し確認させる指導。

(県立御調高等学校)



古典における文語文法の理解が不十分という状況に改善が見られた。

A問題において、「古文を読むこと」の通過率が、県全体の変化に比べ2.7ポイント高い。

④ 諸行無常の響きあり。		③ 申しし人のありさま、		② 名のりけるは、		① 政にも従はず。	
活用形	根拠	活用形	根拠	活用形	根拠	活用形	根拠
問 次の傍線部の活用形とその根拠を書きなさい。							
1年組 番号 氏名 ()							

ポイント

傍線部に接続する語に着目するなど、活用形の根拠を明確にさせている。

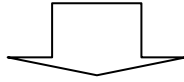
指導改善のポイント

- 古典の学習において、根拠に基づいた文語文法の指導を繰り返す行う。

オ 「文学的文章を読むことについて、叙述に即して人物の心情を的確に捉えること」の具体的な事例

場面ごとの人物の心情を考えさせることにより、叙述に即して的確に読み取らせる指導。

(県立大崎海星高等学校)



文学的文章を読むことについて、叙述に即して人物の心情を的確に捉えることが不十分という状況に改善が見られた。

B問題において、「文学的文章を読むこと」の通過率が、県全体の変化に比べ11.3ポイント高い。

『ハルロ』 学習プリント

○「私」は、自身をどのような人物であると言っているか。

根拠は…

○「私」から見て「K」はどのような人物か。

根拠は…

○「私」はなぜ、Kを裏切ったのか。

根拠は…

○Kはなぜ…

根拠は…

ポイント
場面ごとの人物の心情を本文の根拠に基づいて説明させている。

指導改善のポイント

- 文学的文章を読むことについて、場面ごとの人物の心情を考えさせる工夫を行うことにより、叙述に即して人物の心情を的確に捉えさせるようにする。